

ゼンマイ (*Coniogramme intermedia*, ウラゲイワガネに当る), オニヒカゲワラビ (*Diplazium nipponicum*), ニセコクモウクジャク (*Diplazium virescens* var. *conterminum*), ミゾシダ (*Stegnogramma Pozoi* subsp. *mollissima*) は従来, 小笠原・火山諸島に未記録であった。ホウビカンジュ (*Nephrolepis biserrata*) はかつて中井 (1930), 伊藤 (1969) によって当諸島に産することが報じられていたが証拠となる標本がなく, 再確認が期待されていたものであった。

オガサワラハチジョウシダ (*Pteris boninensis*) では葉の形の変化がきわめて大きいことを説明した。ムニンサジランをイワヤナギシダの地方変種とし, *Loxogramme salicifolia* var. *Toyoshimae* の組合せを発表した。

○空からみた南硫黄島の木生シダの群落 (大場秀章) Hideaki OHBA: Bird's-eye-view of the tree-fern forest of Minami Iwojima island, the Volcano group, Japan (Pl. VI & VII).

1982年6月に南硫黄島の植物相を調べるに先立って航空写真で植生を概観したところ, 山頂から北西側の斜面に広範囲にわたって木生シダが多数生育していることが推測された。しかし, 実際にはこの斜面を踏査することはできず, この島での木生シダの分布状況や植生を掌握するうえで残念に思っていた。ところが幸いにも同年8月にヘリコプターから撮影した, この斜面の写真を手にすることができた。

写真は斜面から比較的至近な距離で撮影されており, 少なくとも木生シダだけは確実に他の植物から区別できる。図版中で星状に樹冠を広げているのが木生シダである。

Pl. VIは島の北西側の山頂直下を写している。本誌57巻11月号 (1982) に発表したエダウチムニンヘゴ (*Cyathea Tuyamae* H. Ohba) は幹から枝を多数出すため, 樹冠が非常に混み合って配している。したがって写真で星状の樹冠が多数密集しているものがエダウチムニンヘゴと考えられる。それにたいして樹冠のひとつひとつがやや孤立しているものは, 同島山頂での実際の調査から, 少なくともその一部はマルハチ (*Cyathea Mertensiana* (Kunze) Copel.) ではないかと思う。だが私が調べた限りではエダウチムニンヘゴのどの個体も枝を分枝していた。もし分枝することがこの種の特徴だとしたら, このやや孤立した樹冠のものはすべてマルハチという可能性もあるが, いずれとも決し難い。それはエダウチムニンヘゴとマルハチの葉形が極めてよく類似しており, この写真では区別できないことによる。こんもりとした樹冠をもつ木本植物はコブガシ (*Machilus Kobu* Maxim.) であると思われるが, 一部にはトキワイヌビワ (*Ficus bonin-simae* Koidz.) やヒサカキ (*Eurya japonica* Thunb.) も混在しているようだ。

山頂部とその下に横線状に配した淡い緑白色の部分はススキの草地である。ススキは崩壊の激しい島の東側斜面に群生しており, 写真左側の稜線にもみえている。ここのス

スキは第 1 苞額が狭卵形で先は尾尖形となり、葉舌の先は長毛縁状で、肩毛も著しいなどの点でススキ (*Miscanthus sinensis* Anderss.) に近い。ススキの草地にはガクアサイヤラセイトソウが点在している。このような種の組合せが南硫黄島の山頂でみられるのは大変興味深い。山頂直下の線状に配したススキに囲まれたようにみえる部分は火口と推定されている。ここにはヒサカキ、トキワイヌビワの低木林がみられた。うすい褐色を帯びた部分はセイタカイワヒメワラビ (*Hypolepis tenuifolia* (Forst.) Bernh.) であろう。

Pl. VII は急峻な北西斜面に列をなして生えている木生シダの見事な群落を撮ったものである。濃緑色の木本植物はコブガシ、左側の露出した岩の周囲の明るい緑色の部分は恐らくタマシダ (*Nephrolepis auriculata* (L.) Trimen) であろう。ここに写された木生シダがすべてエダウチムニンヘゴなのかどうか。それを決めることはできないが、いずれにしても木生シダがこのように多数、しかも高い密度で生育しているところは他にそうないのではなかろうか。

なお、写真は NHK 教養科学部の岡田正大氏による。ここに発表することを快諾くださった同氏に謝意を表します。

In Minami Iwojima island (the Volcano group, Japan), tree-ferns are very abundant, particularly on the northwest slopes approximately from the middle elevation (ca 500 m) to the summit (917 m) as shown in Pls. VI and VII. Tree-ferns are well distinguishable from other plants by the peculiar stellate crown even in such photographs. There are known two species of tree-ferns from this island: these are *Cyathea Mertensiana* (Kunze) Copel. and an endemic, *C. Tuyamae* H. Ohba. The latter shows a marked trend to produce numerous lateral branches (H. Ohba in J. Jap. Bot. 57: 321, 1982). So in plates *C. Tuyamae* bearing lateral branches is well distinguished from *C. Mertensiana* by its densely crowded stellate crowns. But the former without branches, if it is present, is hardly distinguishable from the latter because of the similarity of leaf-shape. The dominant trees with voluminous dark green crown in the plates are considered to be *Machilus Kobu* Maxim., only partially *Ficus boninsimae* Koidz. and *Eurya japonica* Thunb.

Explanation of plates VI-VII

Plate VI. Vegetation on the northwest side below the summit of Minami Iwojima island, alt. 917 m, with dense tree-fern forest containing *Cyathea Mertensiana* (Kunze) Copel. and *C. Tuyamae* H. Ohba.

Plate VII. The huge tree-fern forest on the northwest, steep midslopes of the island.

(東京大学 総合研究資料館植物部門)



H. OHBA: Tree-fern forest of Minami Iwojima Is.



H. OHBA: Tree-fern forest of Minami Iwojima Is.